配 付 資 料

令和８(2026)年５月２８日

「森の芸術祭　晴れの国・岡山」実行委員会事務局

(産業労働部観光課内)

「森の芸術祭　晴れの国・岡山」2027
会期、作品設置会場、参加アーティスト等の発表について

令和８(2026)年５月２６日（火）に開催した「森の芸術祭　晴れの国・岡山」実行委員会第９回総会において、会期、作品設置会場及び参加アーティスト（第１弾）等を発表しました。

記

１　会期

令和９(2027)年９月１８日（土）～同１１月２３日（火・祝）（６７日間）

(参考：前回開催)

令和６(2024)年９月２８日（土）～同１１月２４日（日）（５８日間）

２　作品設置会場（第１弾発表）

【津山市】

作州民芸館、城西浪漫館、津山まなびの鉄道館

【新見市】

新見美術館＜**新規**＞、井倉洞、満奇洞

【真庭市】

GREENable HIRUZEN

【鏡野町】

みずの郷奥津湖＜**新規**＞

【奈義町】

奈義町現代美術館



新見美術館



みずの郷奥津湖

３　参加アーティスト（第１弾発表）

ジュリアナ・ドス・サントス
（ブラジル）**＜初参加＞**



Photo: Nti Uirá.
Courtesy of the artist.

イザベル・シカット
（フィリピン）**＜初参加＞**



Sputniko!
（日本）**＜初参加＞**



©MAMI ARAI

ルイス・ゼルビーニ
（ブラジル）**＜初参加＞**



Photo: Eduardo Ortega

レアンドロ・エルリッヒ（アルゼンチン）＜前回参加＞
リクリット・ティラヴァニ（タイ）＜前回参加＞
森山未來（日本）＜前回参加＞
蜷川実花（日本）＜前回参加＞

「森の芸術祭　晴れの国・岡山」2027 基本計画　芸術祭コンセプト

森に耳を澄ませ、その感性とチューニングすることで身のまわりの自然や文化を再発見しようとした初回の芸術祭の考えを一歩進め、今回は「前に進む森」という新しい視点を掲げます。それは、今日よりほんの少し良くなっていく明日へ向かって、ゆっくりと変化し続ける森の姿です。このイメージの背景には、ケヴィン・ケリー【注１】の提唱する「プロトピア」という考えがあります。それは、理想郷（ユートピア）でも悲観的な未来（ディストピア）でもなく、日々の小さな改善の積み重ねによって、現実の中でよりよい社会を育てていこうとする視点です。

本芸術祭では、このプロトピアの思想と、社会的共通資本の考え方を重ね合わせます。それは、芸術祭を起点として、テクノロジー、農業、福祉、教育など、さまざまな分野の人々が出会い、協働する場をひらきます。そして、自然やインフラ、制度といった、私たちが共有する大切な基盤を守りながら、次の世代へとつないでゆきます。

「森の芸術祭　晴れの国・岡山」2027 は、岡山県北部を舞台に、地域に眠る資源や文化をあらためて見つめ直し、小さな実践を積み重ねていきます。それは作品をつくることにとどまらず、人と自然、文化と暮らしの関係をゆるやかに編み直していく試みでもあります。こうしたプロセスを通じて、訪れる人にも、そこに暮らす人にも、新しい視点や誇りが生まれ、地域の内側から未来へ向かう力が育まれていくことを願っています。

アートディレクター　長谷川 祐子

注１…アメリカの編集者・思想家・テクノロジー評論家。テクノロジーと社会、未来予測に関する著作で知られ、雑誌『WIRED』の創刊編集長の一人。人工知能やインターネット、分散型社会について早くから論じてきた人物として、世界的な影響力を持つ。